

地震被害想定 の 総括

1 地震被害想定 の 総括

本調査で予測された地震被害想定結果を、表1.1及び表1.2に示す。この被害想定結果は、「有馬－高槻構造線」を震源とする内陸型地震を想定したものであり、今後の地震防災対策に必要な不可欠な基礎的データといえる。

表1.1 地震被害想定結果の総括

項目	想定の内容又は想定結果	備考
震源断層	有馬－高槻構造線	島本町に最も大きな被害を及ぼすと考えられる。
地震のタイプ	内陸型（直下型）地震	島本町の地域特性を考慮して設定
震源の位置	島本町付近の 「有馬－高槻構造線」	震源を点ではなく面として捉える。
地震の規模	M = 7.6	活断層の長さから推定
推定震度	6（弱）～6（強）	
液状化危険度	図2.2参照	低地部での液状化の危険度が非常に高い。
建物の倒壊数	1,731棟（倒壊率25.0%）	
木造	1,249棟（倒壊率24.5%）	
非木造	482棟（倒壊率26.6%）	
地震火災	出火件数 9 件	地震後3日間の炎上出火件数
人的被害	746名（全人口の2.46%）	負傷者のうち、約5%が重傷者（1ヶ月以上の入院が必要な者）。
死者	17名（全人口の0.06%）	
負傷者	729名（全人口の2.41%）	
被災者	7,951名（全人口の約26%）	

※ 被害想定項目の想定季節及び想定時刻は次のとおりである。

- ・建物倒壊：季節、時刻等の想定なし
- ・地震火災：冬季の夕刻（18時頃）
- ・人的被害：深夜（夜間人口を用いて想定）
- ・被災者：深夜（夜間人口を用いて想定）

表1.2 地震被害想定のおおまか

町丁目	平成8年4月1日		建物棟数(棟)			推定震度	液化化 危険度 (注1)	建物被害棟数			炎 出火件数 (件数)	延焼 危険度 (注2)	地震火災 危険度 (注3)	死亡者数 (人)	被害 者数 (人)	被災者数 (人)	
	人口 (人)	世帯数	建物棟数(棟)					木造棟数(棟)									倒壊棟数
			木造	非木造	全棟数			大破	中破	倒壊棟数							
大字大沢	23	9	39	8	47	6(弱)	—	8	20	18	2	3	0	0	0	11	
大字尺代	230	66	186	23	209	6(弱)	—	35	94	82	5	2	0	1	2	97	
大字山崎	1,081	504	230	73	303	6(強)	—	25	25	38	15	7	19	1	0	24	
山崎一丁目	586	210	151	33	184	6(強)	A	24	52	50	7	3	9	0	1	11	
山崎二丁目	730	261	60	31	91	6(強)	A	19	30	34	7	3	9	1	2	345	
山崎三丁目	1,298	407	83	14	97	6(強)	A	18	36	36	3	2	4	1	3	536	
大字東大寺	963	327	239	58	297	6(強)	—	32	32	48	12	6	15	0	0	25	
東大寺一丁目	377	131	155	22	177	6(強)	A	18	55	46	12	6	6	0	0	9	
東大寺二丁目	1,092	348	281	76	357	6(強)	A	39	38	58	16	7	20	0	0	239	
東大寺三丁目	36	16	11	1	12	6(強)	—	2	4	4	1	0	0	0	0	15	
東大寺四丁目	12	5	3	1	4	6(強)	A	1	0	1	1	0	0	0	0	6	
大字広瀬	1,029	379	389	42	431	6(強)	A	44	91	90	9	4	11	0	0	242	
広瀬一丁目	1,586	526	424	260	684	6(強)	A	55	76	93	52	26	65	1	1	44	
広瀬二丁目	644	225	202	47	249	6(強)	A	26	76	64	10	5	13	0	1	13	
広瀬三丁目	1,138	436	190	86	276	6(強)	A	26	26	39	18	8	22	0	0	30	
広瀬四丁目	610	224	227	55	282	6(強)	A	26	42	47	11	6	14	0	0	16	
広瀬五丁目	574	217	170	62	232	6(強)	A	20	20	30	13	6	16	0	0	14	
水無瀬一丁目	2,829	1,019	271	70	341	6(強)	A	33	45	56	14	7	18	1	1	74	
青葉一丁目	1,319	504	285	90	375	6(強)	A	35	35	53	18	9	23	0	0	32	
青葉二丁目	945	346	385	60	445	6(強)	A	49	48	73	12	6	15	0	0	22	
青葉三丁目	2,715	943	44	48	92	6(強)	A	6	6	9	10	5	13	1	1	78	
大字桜井	4	2	3	4	7	6(強)	—	1	1	2	1	1	2	0	0	3	
桜井一丁目	426	149	115	24	139	6(強)	A	13	29	28	5	3	7	0	0	13	
桜井二丁目	167	53	74	8	82	6(強)	A	12	31	28	2	1	3	0	0	2	
桜井三丁目	178	62	58	13	71	6(強)	—	8	24	20	3	1	4	0	0	3	
桜井四丁目	428	166	148	38	186	6(強)	—	20	29	35	8	4	10	0	0	12	
桜井五丁目	489	161	141	63	204	6(強)	—	17	29	32	13	6	16	0	0	14	
桜井台	375	123	99	54	153	6(強)	—	16	16	24	11	6	14	0	0	11	
江川一丁目	2,013	668	81	33	114	6(強)	A	12	13	19	7	4	9	1	1	59	
江川二丁目	458	220	91	86	177	6(強)	A	14	13	21	18	21	29	0	0	11	
大字高浜	1,195	382	209	190	399	6(強)	A	23	41	44	38	19	48	0	0	33	
若山台一丁目	1,833	518	44	41	85	6(強)	—	13	21	24	9	4	11	1	1	18	
若山台二丁目	2,327	756	51	37	42	6(強)	—	1	0	1	8	4	10	1	1	65	
百山	579	270	71	62	69	6(強)	A	1	2	2	13	6	16	0	0	16	
合計	30,289	10,633	5,100	1,813	6,913			692	1100	1242	377	195	475	9	17	729	

注1) 液化化危険度A: 液化化の発生する可能性が非常に高い。
 液化化危険度B: 液化化の発生する可能性が高い。
 液化化危険度C: 液化化の発生する可能性が低い又ははない。

注2) 延焼危険度A: 不燃領域率が50%未満又は木造建物密集地域(延焼危険度が高い。)
 延焼危険度B: 不燃領域率が50%以上70%未満
 延焼危険度C: 不燃領域率が70%以上(延焼危険度が低い。)

注3) 地震火災危険度A: 出火件数1件以上で、かつ延焼危険区域
 地震火災危険度B: 出火件数0件であるが、延焼危険区域
 地震火災危険度C: 出火件数1件以上であるが、延焼危険区域外
 ; 上記のいずれにも該当しない。